

警 城 春 秋

號 第

所 行 發 警
社 秋 春 城 警
八 六 町 市 平
二 三 五 話 電
人 刷 印 行 發 輯 編
水 稻 木 高
所 版 活 平

【錢十四部一價定】

大衆の名の下に起て

機正に熟す

毎日の新聞紙は各官廳の民主化運動、各會社の勞働組合の結成、食糧問題の急迫で紙面を埋めてゐる。給料を貰つてゐる者は待遇改善を要求も出来るし、百姓や商人等のごとく物を持つてゐる者は物を値上してゆくこともできる。營業を持つてゐるものは湯屋床屋の如く料金値上といふ方法もある。しかし失業者、復員者、未復員軍人の家族で給與金の全く中絶した人々は一体どうしてゆけといふのだ。ごへ待遇問題を要求すれば好いのだ。彼等の團體權を速かに獲得しなければ餓死以外に道はない。しかも彼等失業者の多くはその性質上善良で積極性なく生活力の弱い人々である。失業者復員者等で生活力の強い者は閑屋に落ちるなどといつ

ても落ちなければ食つてゆけないではないか。閑商人の氾濫がいかなる影響を社會に及ぼしてゐるかは説明を要せずして明らかである。むづかしい理論を述べることをやめよ。我々はさし迫つた刻下の問題の實際的解決を望んでゐるのだ。そのためには一般大衆が思ひ切つて立ち上つて次のことを早急に實行に移すのだ。政黨にこだわらぬ必要もない。多少の主義主張の相違もかまはない。勿論地位身分などはどうでも好い。お互に手を握り合つて突進するのだ。五人の同志が集れば必ず出来る。來れ同志の士！市常會の徹底的民主化、關行爲に依つて大衆の生活を脅やかす惡徳者の徹底的糾弾、立候補者の不法行爲に

對する嚴重なる監視、食糧品配給への大衆參加、以上四項目に就いて少しく説明を加へておく。現在の市常會は翼賛會時代そのまゝの機構であり従つて運営も所謂下達のみで市民の聲はどこにも反映してゐない。昔のギリシャの市民大會で貝殼追放を行つたやうに市政を亂す奴は市民の名に於て追放してやむ位の權威を持たしめねばならぬ。全然關をなさぬといふのではなしに、關行爲で私腹を肥やして飽食暖衣してゐる徒輩があるから我々の生活が壓迫されるのだ。我々の憎むのは多量の物資を關で流す奴を引きずり出して石で打て！(民衆の手で罪を正せ)といふのだ。苟くも衆議院の議員となつて日本再建に挺身しようとする輩は大衆の窮乏生

活をよそに高級料亭で宴會を開いて御馳走したり、當選を期してあらゆる舊式の不法行爲を行ふやうではその事自体既に代議士としての失格者といふべきで、我々は其の名に依つてその偽裝を見やぶり全力をあげてその人物の落選に努力すべきである。好い人物がなければせめては最も悪い奴を出られぬやうにすべきである。

ニ、食糧の公正なる配給のため市民から委員を出してその數量品質配分に就いて市民にいささかの疑念も持たせぬやうにせねばならぬ。もし不正があつた場合は市民の名に依つて飽く迄も追及すべきである。もし役人に不法行爲があつた場合は特にその罪を憎んで表面化すべきである。

社告

總選舉は三月卅一日と決定。三月一日告示が行はれるを以て本社は、三月中旬豫報の如く議員候補者の合同政見發表會を開催す。會場、日取等は次號に發表の豫定

貝殼追放

△孟子は「棄といふものはくらくと目まひがする位強くないと病氣にきかぬものだ」と述べて直言の必要を強調してゐる。

△社會惡の摘發もその當事者を相當強く刺戟する位でないといふ文字とはならぬ。

△しかし薬は適量でない逆効果を來たして病を悪化させる。社會惡の摘發もその程度をあやまつてはならぬ。

△近頃の新聞雑誌には言論自由時代を何と心得たか好んで必要以上に社會惡の摘發をやつてゐる傾向も見え。

△しかし社會惡といふ病氣も相當にすすんで骨がらみの状態だから一本二本の注射はきかなくなつてゐる。思ひ切つた劇薬が外科手術の必要も確かにある。

△他人の非行をあばく事と直言とは似て非なるものである。他人の非行をあばくのはそれに依つて單に快を一時に食ふことであり、直言はその人の痛處をすべりといつてのけてその人を反省させ善に向はしめることである。

△天皇制の問題にしても天皇の悪い面ばかり書き立てたりあまり露骨な批評は反感こそ湧け納得はしない。さいつて美點ばかり述べられると齒が浮いて來てこれまた賛同し難い。

△要は感ずるがまゝに率直に物をいふことが一番自然で信じられ易い。

△偽裝民主主義といふ文字を見ることがあるが全くいやな文字だ。一日も早く追放したい。

高 壓 線

住所氏名職業明記のこと
紙上匿名は隨意

◆春秋ペンクラブに就ての私案

磐城春秋も發刊以來號を重ねるに従ひ、その体裁内容も漸次整備され地方紙として稍々完璧に近いものとなつたことは、地方人として誠に喜びに堪へない。これはその編輯經營に當らるる高木、永野兩氏の努力によるもので兩氏に對して深甚なる感謝をささげたい。誠に差出がましいことではあるが、こゝに自分は「春秋ペンクラブ」一假稱なるものを提唱したい。たとへ句間といへども高木さんが一人であれだけのものをまとめあげることには容易なことではないと考へてゐる。それで高木さんの周囲の人々で、一つのグループをつくつて編輯、經營その他いろいろんな面から多少なりとも助力をしたいと思いますのである。クラブのメンバーは出来れば自らも春秋のために執筆し、或は記事の斡旋紹介もしたい。販賣の面に於ても購讀者の擴充を圖りたい。直接間接に春秋につな

◆市議諸氏に寄す

市民を代表すべき市議員諸氏よ！ 諸氏の堂々たる肩書のついた顔は現在何に利用されて居られるか。諸氏は戦時中敵を目前に控へ乍ら名譽慾に燃々として義勇隊幹部の再編成迄して市民を落膽させたが、市會議員は常時市民の聲を聞き叫びに耳を傾け正しい輿論を昂揚してその實現に努力すべきで單に予算や視察を以てのみ能事終りとするべき

ではないと思ふ。諸氏は現下の各家庭を脅かしてゐる食糧問題を始め、戦災者救護等々の問題解決のためだけにその肩書と顔を利用してくれたであらうか。自分一家の事さへ手が廻らないのだ、市民の台所の事迄盡力は出来ない抗辯されるかも知れない。それならば須らく市議の肩書を返上すべきではないか。然るに現在迄自分の無能を恥ぢ過ぎの過失に對し責任を感じて自發的に辭職を申し出た市會議員の一人も無い事を平市のために甚だ遺憾に思つてゐる。来るべき市議選挙にはかかる無氣力厚顔な人々には市民は一票を投じないであらう事を明言する。過去の惡因縁の拘束を脱し切れぬ無能な惡徳老人(必ずしも年齢のみの意にあらず)は責任追究の糺弾を待たず勇ましく潔く自ら隱退して欲しい。清く明るい平市を建設するの途は純真と正義に基づく熱心と力による積極果敢な斷行以外に決してない事を確信する。さればこそ青年に期待する所は大きい、敢へて老人市議諸氏の反省を促し青年の奮起を切望してやまな

(磐城青年 覆面生)

◆もつと身近に

磐城春秋が一部の特權階級の私有物でなく一般人のため存在である以上もつと身近に欲しいと思ふ。例へば食糧問題、配給機構、戦災者救護、復員軍人、労働問題、天皇制等に生活不安を始め問題は山積してゐる。更らに文化啓蒙運動も醫者とか先生とかの一部獨占的微積學的高尚さを離れもつと一般の生活に迄滲透させるやうな方向に更らに積極的な方法を見出さねばならぬと思ふが……
難しい専門的公式的な研究発表や音楽會の開催よりも日常生活により直接的な文化を科學を私達は求めてゐるのだ
これらの問題に關してもつと一般人の聲を聞き時には討論會を實際に或は誌上に活潑に展開して欲しいと思ふ。唯會議や研究会、争議の簡條書羅列報告では情ない、その内容をそして批判が欲しい。なほ磐城文化協會とはいかなる団体であるか。現在の會員が皆率先協力してくれたなら鈴木光先生多年の念願たる圖書館が

第二回

レコードコンサート
期日 2月3日(日)后一時
場所 マルトモホール上
曲目 未 完 成 交 響 樂
其 他
會員券 マルトモ書店ニ
主 催 者 會

皆さんのために!

交換會を開設しました

日用品交換會開設

新古家財道具、衣服類、日用品、不用品、其他一般物資

磐城日用品交換會

責任者 坂本忠治

平市仲町二

電話三四四番

旬間録音

一月15 27

本旬間中に於ける注目すべき動きは昨冬以來簇出した労働組合が大団圓結の機運に向つて来たこととこれと勤勞農民同盟とが結びついてゆけば興味ある問題となつてくると思はれる。湯賃床屋の値上と供米問題もまた關心事たるを失はぬ。

△労働委員選出 労働者代表十五、六日

平働労働の幹旋で常磐地方各礦山労働組合、礦夫組合代表十二名が集合、新労働組合法による地方労働委員設置に就いて二名の労働者代表委員を選出する事になつたが、各労働組合の内情勢がまだ混沌としてゐるので結局常磐地方礦夫組合加藤木誠一郎常磐労働組合日野利春常磐炭礦武藤武夫古河炭礦大河原勝次の六氏が推薦委員となつて選出することに決定、この推薦委員は廿二日湯本町日野氏宅にて廿六日内郷町警防會館にて會合、時局の要請に従ひ急速に聯合會を結成することとなり、その準備として聯合規約を草案した

△戦犯容疑者本田の公判

十九日 米軍々事裁判第五次戦争犯罪容疑者元陸軍大尉本田廣次(茨城縣人)の公判が横濱地方裁判所第二號法廷で判士長コルマン海軍大佐主宰で開廷、起訴理由は左の如くである

福島縣湯本及好間所在の俘虜收容長として收容所に於ける部下の殘虐行為取締を行つた責任、湯本收容所長として赤十字救恤品等を窃取私用に供せる件、罹病中の俘虜迄過重なる炭礦勞務に使役せる件

△常磐炭礦務係長長谷川克巳、勞務課通譯岡田信一、鹿島坑長寺田壽、炭礦醫白倉一弘、勞務課長木山重彦の諸氏は證人として喚問されてゐる

△日曹赤井炭礦罷業 廿二日

赤井村日曹赤井炭礦労働組合は賃金五倍値上その他十數ヶ條を會社に要求、その中三ヶ條を容れられたが他を拒否されたので直ちに従業員大會を開いて目的貫徹のために罷業に入つたが採炭事業の重要性に鑑み規律と統制ある團結を以て行動すべきであるとなし、委員六名が上京、労働組合總動員本部の應援を求めて、日曹本社に交渉する一方、回答日の卅一日迄は自主的に

就業してゐる

△湯賃理髮賃の値上 廿五日 湯賃大人四十錢小人三十錢に値上となる。これより先床屋は額刺七十五錢頭七十五錢合計一圓五十錢と値上したが、五割の税がついて二圓廿五錢に値上されたことになる

△常磐炭礦務組結成 廿七日 常磐炭礦では先に湯本坑、川平坑、磐崎坑、製作所に自主的な單一労働組合が結成されたが住吉、小名濱、綴各坑にも結成準備會が進められてゐる。本日これら

を總合した常磐炭礦労働組合の結成大會が神苑俱樂部で舉行された

△供米續々完遂 石城郡下の供米は舊正月を前に漸く軌道に乗り、湯本豊間、四ツ倉、川前が先づ完納、その他の町村も續々供出しつゝあるが郡下の割當數十九万八千五百俵中廿六日現在の供出總數は五万八千二百七十九俵である

◇レコードコンサート

二月三日午後一時からマルトモホールで「未完成交響樂」(シューベルト)その他レコードコンサートを開催する

◇婦人講座 二月二日午後一時から織内平八醫博の「生活の合理化と婦人」と題する婦人講座を開設する

◇日曜數學講座 毎日曜御麻の國民學校で山口研次氏(物理學校、東北帝大數學科卒)の數學講座を開く。對象は中等高専生徒

◇食糧増産 生活部では御麻に田一段三畝を借りて米及馬鈴薯を耕作、會員の諸會合の折の用に供しようとして計畫をすすめてゐる

◇臨時委員會 一月廿五日午後六時半から磐城春秋編輯室にて臨時委員會を開催、福島音樂協會主催の「縣民歌發表演奏會」の件に就き會員券の整理、當日の準備打合せ等を行つた

◇縣民歌發表演奏會 一月廿七日午後一時から磐女講堂に於て福島音樂協會主催本協會後援の「縣民歌

發表演奏會」が開催された。定刻雨もよひにも拘はらず會場に溢れる聴衆を前に音樂協會副會長中目徹氏の開會の辭、本會委員五十嵐雄二氏の地元挨拶、平市長伊藤秀吉氏の祝辭があり

- 一、女聲二重唱(根本ツネ阿部智子)イ花、口歌劇、手紙の歌
 - 二、バリトン獨唱(平田弘夫)イ晩歌、ロ五月
 - 三、ソプラノ獨唱(根本ツネ)イ君よ知るや南の國、ロ唄、ハ風に寄せて唄へる春の歌より
 - 四、ピアノ獨奏(目黒敏一郎)バラード
 - 五、テノール獨唱(中目徹)イ昔心空るなる、ロアツエ、マリ
 - 六、歌唱指導(平田弘夫)縣民歌希望の青空
 - 七、ソプラノ獨唱(根本ツネ)イ藍の夢、ロ永遠の愛、ハお母さんも知る通り
 - 八、二重唱、四重唱、イ歌劇梅娘より、乾杯の歌、ロ流涙の民
 - 九、全員齊唱(希望の青空)
- といふプログラムで午後三時盛況裡に閉會となつた。なほ終了後磐女會議室で音樂協會員側と、本協會委員とで交歓の茶話會を催して種々懇談し、平にも音樂協會支部のやうなものを作り音楽による民主化運動を行ふことも意義ある事であるといふやうな意見も出た。

困窮者の緊急援護

一月の市常會

平市の一月常會は定例の如く廿五日午後一時から公會堂日本間で開催せられた。出席者は廿六名の區長中二八、九、二〇、二二、二三、二六、三〇、三一の九區長が欠席、顧問は四名中山崎與三郎氏一名が出席、參與常會委員は五十名中出席者は扇谷平郵便局長、吉村吉次郎、野崎滿藏、猪狩庄平、遠藤心光、諸橋敬一郎、松本金市郎、大嶺庫、柴田徳二、矢吹龜作、小松茂、小野金太郎、渡邊久の十三氏常會指導員は十六名中樫村義衛氏及渡邊、蜂屋、佐藤の三國民學校長だけが出席し中等學校長は全然姿を見せなかつた。

急援護實施ノ件

山野邊厚生課長より説明、援護の對象となる者は生活困窮者(一六一名)海外引揚同胞(五六名)傷痍軍人(五六名)未復員者(五九七名)戦死者遺族(二六〇名)失業者(二五六名)で計一、八三七名が該当してゐる。市では區長方面委員等を通じて市に割當てられた資金八万一千圓を當局の要望に従つてなるべく現物給與で救護にあつた。

供米ニ關スル件

伊藤市長説明、平市は現在七十パーセント供出しである。

未利用資源集荷ニ關スル件

伊藤市長説明、縣として二万石を未利用資源から生み出すべく指定されてゐる。二月中には平蕨及江名に製粉工場ができる。市としては密柑の皮及び茶殻の乾燥したものを毎月一定の日に學童を通じて菓糖、粉食として學童の給食にあてる。柴田徳二氏から供出者にその並に應じ還元配給した方集荷成績好からうと希望意見があつた。

進駐軍指令徹底ニ關スル件

佐藤助役より説明、進駐軍の指令は市が受領した場合はその日時を確實に報告しなければならぬ程嚴重なものである。

社會事業資金募集ニ關スル件

山野邊厚生課長説明、縣として五千万圓、市に割當てられてゐる額は一千万圓である。

鐵道運輸協力ニ關スル件

臨時の平藤係員より説明、旅客乗車の制限、正當乗降の勵行乗降の秩序化、客車の持込荷物の減少化、互讓精神の發揚、聯合及客車の清潔保持、携帶品の盜難防止、管内通行嚴禁に就いて協力を求めた。

商品販賣價格ノ英文表ニ關スル件

増田商工課長説明、食糧品を除き全商品に英文を以て税込價格及課税額を表示することゝ勵行しなければならぬ。進駐軍發行の免稅證明書を持つて來た兵には課税しないことになつてゐる。

新川改修工事協力ニ關スル件

神名倉工務課長説明、本年度の新川改修に要する人員は總計五千その中一千人を市民の協力で充たし、四千人を市民の協力に待つことになつてゐる。これを市の戸數でパーセントを出して見ると六十五パーセントとなる。延日數四十八日、一日八十人位宛出動して貰へば好い。割當表は區長の所に出す。賃金は男六圓五十錢、女子供四圓五十錢、時間は八時から午後三時迄。

平日用品交換所開設ノ件

平市は現在七十パーセント供出しである。

件

草野商工經濟會支部主催の説明本誌前號と違つた所は月曜を除く他毎日交付、酒醬油は五合味噌五百匁。

區内會上通事項

米麥等加工證明書ノ發行廢止ノ件(第三十三區)提出區長より説明、證明書を貰ふために半日を費さればならぬ。また市吏員が證明書を供米完納を結びつけて買辭を弄すことをやめてほしい(保留)。

安藝ノ海一行

出羽ノ海部屋の總帥として角力巧者を以て鳴る横綱安藝ノ海、江戸前の角力として豪壯を以て聞ゆる大關東富士の一行百數十名が來る。十二日湯本町舊校舎で大角力を公開、久しぶりに地方の角力ファンの渴望を充たしてくれることになつた。

平盲學校再會

昨年三月の震災によつて校舎を焼かれた平盲學校は市當局の努力によつて元藤田女學校舊校舎を常磐炭礦か

ら九万圓で買収、机その他も藤田女學校時代のものを炭礦から譲りうけ一月廿一日、十ヶ月ぶりで再開された。在籍生徒五十六名中、寄宿舎にゐた遠方の者を除き平附近のもの廿六名が登校、久しぶりで先生の授業を受けることになつて嬉々として喜んでゐる。

編輯室

△お蔭様で第五號迄溜まりつた。大体の編輯方針はこの体裁でゆく、本紙は地方文化紙といふべきであらう。従來の新開の型とは違つてゐる筈である。

△私の夢は磐城春秋會館といふやうなものを作つて編輯室、印刷所、他、磐城文庫(私設圖書館)磐城春秋出版部、磐城春秋クラブ、文化講座用ホール、それに食堂を併置した磐城文化の綜合會館といふものにして見たいと思つてゐる。

△紙の都合で部數は増加せられぬから、平蕨、平野のいづみや遠藤パン店本社等でお求めになつた方は月極めに申込んでほしい。

△廣告は折込みか町に張札をするよりも本紙を利用した方が効果があると思ふ。何故ならどこかに保存され、意外な所でその廣告を讀む人があつたらうからである。平野にゆくこともなければ數ヶ月も経てから讀まれる場合もない。三猿文庫のやうな所に保存されてゆく。さ何年後かにさへ讀む人があつたらう。

△編輯室の二階に來てゐる人の人がいる。このことを語つてくれる。またいろいろ本誌の批評もしてくれ。みんな本當なのだ。ありがたく御意見を拜聴しておくれ。(高木)

醫學徒の集ひ

磐城醫學生同行人會誕生

平市内の大學及專門學校に在籍中の醫學生を結集して休暇歸郷中の尊い時間を有効適切に過させようといふ意圖の下に日本醫藥團平病院長内木宗八博士が幹旋の勞を執り、千葉醫大の龜山正邦君慶應醫大の吉田利一君等が首唱者となり、磐城醫學生同行人會(假稱)を結成、廿六日午後一時から平病院の醫務室でその結成準備會を開催した

當日集つた會員は卅九名で内女子醫學生拾名、先づ先輩大森勇氏が醫學生の昔嚆を述べて挨拶をなし、ついで酒井保氏の床例報告、内木宗八氏の會成立に到る迄の經過報告の後、織内平八氏から結核と榮養失調、風邪の病理等に就いての指導があつた。會の今後の事業は近日中上級生に對して先輩織内平八博士(海軍々醫學校恩賜卒)がその専門とする結核の病理及レントゲン療法に就いての指導を行ひ來る三月の休暇には各會員の研究發表ゼミナールを催す予定となつてゐる

縣下隨一の乱戦

日野定利氏立候補
總選舉告示は三月一日と決定したが石城地方からは十三万四千餘の有権者に對して現在迄に立候補を聲明してゐるのは關内正一、蓮沼龍輔、長島菊苗、大井川幸隆、古川傳一、星一、古和口虎雄、松井松吉、八代義定、齋藤晃、新妻清一郎の十一氏で、最近内郷町の日野利定氏が突如共産黨を名乗つて立候補を宣言してゐるの

で都合十二氏となり縣下隨一の乱立混戦状態となつた。日野氏は一高から東大法科に學び内郷町にて運送業を営んでゐる。これらの十二氏中多くの新人と目されてゐる人々が舊政黨人の中に伍し、どの程度迄成功を収め得るか興味ある問題である

出産率激減

戰爭の影響顯著
戰爭が出生や死亡にどんな影響を與へてゐるか。平市役所の戸籍簿の人口動態に依つて調べて見ると、次の

やうな深刻な影響が見える。即ちこれを出産について見ると十九年十二月には八十八名であつたものが廿年十二月には四十五名と半數に激減してゐる。死亡は影響は割合に少く、十九年十二月の六十二名に對し、廿年十二月には七十名で僅かに八名の増加に過ぎない。結婚は實際には増加してゐるが戰時中と違つて遺族扶助料等の關係からすぐ届け出る必要がない所から戸籍簿にはあらはれて來ない傾向が見える

入學校の自由選擇

平國民學校新入學兒童
新しい學年が近づいてくると、戰災に依つて破壊された第一國民學校もやがては復興するだらうがさしあたつては第二國民學校第三國民學校の校舎を使用二部教授するより方法はない、市教務課では新入學兒童が姉さんや兄さんと違ふ學校では氣の毒だといふので各家庭の希望を容れて戰災に依つて他の學區に全家が移轉してゐる場合は現在の學區でも或は前住所の學區に依つてもその自由選擇にまかせるといふことである。な

入學兒童を持つ家庭で寄留届を出してゐない者がまだ八十名もあるといふことだ、至急届出てくれるやうに希望してゐる。新入學兒童は五百四十八名で昨年の六百五名に比して矢張減少してゐる

今野勤勞署長榮轉

平勤勞署長今野次郎二氏は一月廿五日地方事務所長の異動によつて田村地方事務所長に拔擢され廿八日に赴任した。今野氏は昨年四月増子前署長勇退の後をうけて若松勤勞動員署長から來任、強制疎開による應舎の移轉、終戦前後の複雑多難なる炭礦勞務者問題等の解決に盡瘁した。本年四十三歳、相中から京大經濟科に學ぶその豪邁果敢にして明朗なる人柄は今次の榮轉を當然としてその將來を期待されてゐる。なほ後任は大竹榮一氏が署長心得として發命されてゐる

三門博の浪曲

戰災者慰安演藝會
來る十二日正十二時から午後四時迄風戸興行社川徳興行の兩者が主催者となり、浪曲界の泰斗として人氣の絶頂にある三門博を招いて

公會堂日本間に戰災者及戰死者の遺族を無料招待して慰安演藝會を開催する。切符は市役所から配布される

産科婦人科
井坂醫院
平市田町
電話五五九

産科婦人科
實川醫院
平市田町
電話二七〇

耳鼻科咽喉科
鈴木醫院
平市田町
電話六一五

眼科
明雲堂醫院
平市仲田町

日本警察醫院
平病院
院長 内木宗八
平市十五丁目
電話六四一

耳鼻科喉科
高柳醫院
平市城山女學校
電話三三六

内科小兒科
鈴木醫院
平市銀治町
電話四五二番

人物 紹介 (4) 友部弘勇氏 平驛長

旅行をしようにも容易に切符が手に入らない。驛の窓口には毎日群衆が薙めき合つてゐる。一日の乗降客一万五千、定期券七千、制限下の切符の發賣枚數九百配下の驛員四百……平驛の驛長さんとはどんな人だらうと想像するのはごみ／＼した切符買ひの行列に加はつていら／＼した氣持で順番を待つてゐる大衆のほとんど大部分ではあるまいか。彼等は事務室のあたりにも羨望の瞳を向けてゐるのである。

なから大卓子の上の小さな花瓶に挿した真赤な南天の實を見詰めて、女子驛員の紙幣を數へる手つきを眺めたりしてゐる中に側の椅子に來て座を占めた。腫物か何かで詰襟の鐵道員の制服が着られぬのださうだ。丸い血色の好い顔には精悍の氣が溢れてをり、態度もことばつきも野人といふ印象を受ける。確かに長い間お上の祿を食んで戦々競々として職務上に自己の過失のなからんことを期して來た役人といふ型ではない。友部氏はお隣の茨城縣友部の生れで、生家は農業だ。長男だが實家には姉さんが立つてゐるといふ。鐵道に入つたのが二十歳の折で、水戸驛の電信係が振り出しだ。日給は四十錢か五十錢だったといふから月十四五圓の收入だ。もつとも時は明治四十五年といふから代用教員が月給七八圓の時代だ。あへて安かつたといへぬ譯だ。その後車掌をやつたり助役となつたり順調に昇進して、初めて驛長となつたのが岩間驛である。

かくて泉、高萩、日立を経て昨年十一月平柳驛長勇退の後を受けてわが平驛長となつたのである。日立の驛長としては終戦前の猛烈な襲撃を極めた爆撃、艦砲射撃、焼夷彈攻撃の中を驛を離れずに敢闘、職場を死守した。水戸驛の助役時代に大演習の軍隊輸送に力闘したのど並んで自分に取つて忘れ得ぬ職場取闘記録である。語つてゐる。趣味としては謡曲と弓道で、謡曲は寶生流で百五十番をあげてをり、弓道は三段といふ腕前だ。

「鐵道員の切符の横流しといふ噂があります……」と無遠慮に質問の矢を放つて見たらたじろぎもせず平然として説明を始めた。陳辯これつとむといふ思はやらぬ。淡々たるものだが切符は窓口、申告、特別銓議の三通りになつて出ているが特別銓議は驛長助役旅行統制官だけが出す權利があるのだといふ。先般中等學校の分散授業で各地に先生方が出張する折の切符をどうするかといふ問題になつた時などはわざ／＼管理部に電話して特別の處置をとつてくれたり、官公衙で出張の折などその長たる人が頭を下げてゆくと「わざ／＼來なくとも小使か給仕で結構です」といつて相手を飽く迄信じて臨機の處置をとつてゆく態度など外部の評判はおしなべて好い。驛長自身「私は政治家の型だと批評されたことがあつたが、好いと思つたことは断然やる、それで悪かつたらこたわらずにすぐ改める、何事でも全従業員信頼を得てこれを統率してゆく力が要だ」と語つてゐるが、兎に角時節柄もし驛員にして反省すべき点があるを示すべきで大衆の眼は見えてをり聞いてをるのである。最後に一般人に對する感想を伺つて見た。

特に感ずるのは交通道徳の低下といふことである。客車の窓から降り降りする客があり、ホームや待合室で大小便をする者があり、夜になると焚火をするといふ始末だ。無切符の乗り逃げ、乗り越し等も非常に多く、待合室での盜難も多くなつて來てゐる。驛では巡視員を十人宛毎晩出して取締をやつてゐるといふ状況である。持込荷物も制限があるのだが食糧事情も急迫の折柄、氣の毒だといふ親心も湧いてな／＼思ひ切つた處置もさり／＼と。要は一般人が自謙自戒してくれることが望ましい。

製粉機 各種有リ
山吉商店
電話二六八番
常陽銀行平支店

馬目酒店平營業所
吉田 正夫
電話二五番

伊藤齒科醫院
齒學得業士伊藤一人
齒學得業士神尾精二
平市振地小路一
電話三四五番

讀者課題募集!!
讀者から次號には誰を紹介せよとか何に就いて記事を作れとか注文を出して下さい。その場合その具体的方法迄明示して下さい。ならば結構です。用紙返窓編輯所へ直接届けて下さつて宜敷うございませう。

求ム自動車修理工(但経験者二名)
委細面談便ス。テストノ上採用
常磐石炭増産助成株式會社
自動車修理工場
平市田町二四
電話(呼)五〇九番

大いなる幻想

中村月城

歴史の記録に依ると、パビロニア帝國が、ユダヤ王國を攻略して其の財寶を奪ひ多數の住民を虜囚として強

諸行無常の眞理は、特に印度の宗教哲學者等が把握したものであつて、吾等日本人は佛敎に依つて此の眞理

未だパビロニア興るに到らず、パビロニア帝國ひとり其の強大を誇つてゐる最中に、第二イザヤと呼ばるる無名の予言者が起つて敗殘の祖國と同胞と呼びかけ

曰く「荒野に聲が擧つてゐる、人無き曠野に叫び聲があがつてゐる。草は枯れ、花は萎む、總ての榮華は野の草花の如く儂いものである」と、叫んでゐる」といふのである。

を民衆に傳へるのがアラビヤ系宗教文學の一大特徴である。

敗戦の苦難に押し流されて三千年傳統の自信を失ひ、占領軍の勢威に戰慄し、アラビヤの腰となり、目前の食物あさりのみ血眼となつて祖國復興の幻想を有たざる者は憐れなる哉である。

友へ

柴山光一郎

幾度か過ぎ越した年の暮の悲哀と感傷を、永遠の泉の中に流し去り、つづらな瞳を深夜の鐘の音にき、ほれば、新たによみがへる若い命のかけを八幡の社の杉の梢にうちかけて祝福された未來をのぞみながら、靜かに歩み去る時の流れを私はひとり凝視してゐます

か見ればは出来ません。しかし私は信じてゐます。君が無事に平野のプラットホームに立たれる日まで、敗戦の堪へられない壓迫感から、すなはち又誰々しく立ち上つた君を、私達は待ちうけてゐます。二十歳を越えればかりの私達にあまりにも強くおしつけられた焦燥と絶望と悲しみは、生涯負はさるべき傷痕の様に苦い敗戦の味を感じさせます。

敗戦の重みに堪へながら、爆發しきつな心を押へつけて、「理性こそ愛國である」との信念のもとに、押し上げ得ない壓迫を身をもつて支へ、唯々生涯の苦しみを生き抜かうではありませんか。

昭利廿年を忘れることは、苦しみよりはなれたるのじまかも知れませんが、しかし背中に押された烙印は、運命の子としての歴史的使命の中にいつまでも沈潜してゐるの思は知つてゐます。しかし、私には到底逃れることの出来ない運命に、一歩一歩近づいてゐるのを感じられず。新しい二十三年の出發はすべて敗戦の時に始つてゐます。それ以前の生活は、唯今日

私が如何に世界を觀てゐるかの底をなす一階階にすぎません。これから私達の本當の人生が始まるのです。

一月二日の朝まだき、八幡の森の浸み入る様な冷氣の中に立つて、大連に残れる君と、平で綠酒を祈りました。そ、り立つの森の木は逞しい意志と行動とを與へてくれます。

教室の中を見まはして、遂に姿を見せない級友のあるのを知つた時、私の頭の中はB20の爆弾の炸裂と、ニュースで見た特攻基地の爆音とで我を忘れ、こみ上げてくる憤りを禁じ得ません。

資本部開設

一、書籍の種類を廣げることが特色です。二、會員組織ですが會員の御紹介があれば難方にも御貸致します。三、書籍の散逸を防ぐため保證金を御預りいたします。平市四丁目 電話二三四番 マルトモ書店資本部

ヤマフル 味噌 油 鹽 屋 平市古銀治町 電話二七七番

アコウ健康相談所 病氣の全快の意は適確な豫防法手當法治療法の「アコウ」の確立に有ります。皆様の健康の厚生に助言者として當薬局を御利用下さい。優良なる家庭薬品の調劑 日本健民厚生協會指定 阿康藥局 平市田町 電話四四四

文 藝

投稿 歡迎

露 店 街

鈴木 博

頃日心赴くまゝに平の露店街を散策す。一巡して欲するものあらざるなきを知る。露中乏しきにはあられども、その法外なる高値の前に暫したれども。さりながら、愚かなる生への執着心は遂に吾をして百金の魚を買はしむ。噫、人知るや否や、そを支ふるに腕に五指を以て足るを。願ひて自ら嘲ひ、即ち作れる歌。

生けらるる生命を追ひて人皆のまなこうつろし露店を流る生きればならぬ生命が百金の魚を掲げて自ら嘲ふ

公然と露の市路に高値呼ぶ露店のこゝろ諸はむさず

汽車来るに未だ問あれど再びは露店覗かむ心も湧かず

露店にて得たるいさゝの糧きけて心利まむとするを疑ふ

雑 詠

小林詩知朗

自分の娘妻によく似て腹が立ち病む友へ今日の寒さを語りつゝ、いろ／＼の顔が押し合ふ會計日

秋の日落

阿部マコ子

感傷の灯をさす星の精泣きたい乙女の胸をなほ切なくするんです

野分の風

白い手で何を招くかすゝきの穂一つ一つの想ひ出に涙が流れてくるんです

涼野 芳雄

あゝ秋は来て秋は逝く

兄 弟

涼野 芳雄

良三は手のつげられぬだつてであつた。買物にゆく母を追つては地固太踏んで泣き乍ら母を呼んだ。終ひには道路上に仰向けにひっくり返つて了ふのである。父に叱られると「馬鹿々々」と泣き喚いて父の下駄を蹴へ投げ込んだ。父の顔は恐かつたが、それでも夕方になるまで母にさりながらつて家へ戻つた。「死んぢまんだ、死んぢまんだ」といつて抱丁を振り廻したこともあつた。最初の頃は父や母も驚いて止めたりしたが、度重なることも相手にしなかつた。畜生！良三は腰々かんなの笑ひ顔を恨めし相に見つめた。良三にはとても腹を切れなかつたのである。

良三は兄が中學校の二年の時に生れた。だから良三が物心もつかぬ中に兄は東京の學校へいつてつた。良三が覚えてゐるのはいつか町外れの田圃道を兄の手にひかれて散歩したときの事だけである。木枯しの吹き荒ぶ夕暮時、兄は風に向つて大きな聲で歌を歌つた。……直ぐ上の兄は良三が未だ生れない前に不明の病氣で死んで了つたのださうである。

良三が八つの子であつた。……「兄ちゃんか歸つて来る」といふので、良三は前の晩からはじやぎまはつてゐた。……「僕今夜起きてん

だよ」と中々寝ようとしなかつたが、柱時計が十打つと、さうく蒲團もしくすに寝込んでしまつた。……兄ちゃんが明日東京から歸つて来るんだ。

其朝良三は暗い中から目を覺まして母を起した。「うるさいぞ」と父は怒つた様に言つてゐたが、やがて煙草をすひ始めてゐた。「母ちゃん、御飯来た？」と良三は何遍か母に訊いた。「もう少しね」母は台所に忙しかつた。……兄ちゃんの歸りを待つ色々な御馳走を母は作つてゐるのである。

良三はかき込む様に食へ終へるまで、一人で停車場の方へ行つた。あちこちで雨戸を繰る音、朝食前の町は人通りも疎らだつた。……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

良三は泣き相な顔をして足を引つてかへつて来た。ズボンがすれて時々ちくちくと痛んだ。

良三が病院から歸ると、兄ちゃんが微笑みながら「どうした、良三」と言つた。良三は急に悲しくなつてわつと聲をあげて泣いた。「いいよ、泣かなくていい、もう歸つて来たんだもの……」良三はいつまでもしくしく泣き止んでゐた。

その傷が膿んで、良三の膝には今尙火傷の痕の様に成つて残つてゐる。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

良三は泣き相な顔をして足を引つてかへつて来た。ズボンがすれて時々ちくちくと痛んだ。

良三が病院から歸ると、兄ちゃんが微笑みながら「どうした、良三」と言つた。良三は急に悲しくなつてわつと聲をあげて泣いた。「いいよ、泣かなくていい、もう歸つて来たんだもの……」良三はいつまでもしくしく泣き止んでゐた。

その傷が膿んで、良三の膝には今尙火傷の痕の様に成つて残つてゐる。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

良三は泣き相な顔をして足を引つてかへつて来た。ズボンがすれて時々ちくちくと痛んだ。

良三が病院から歸ると、兄ちゃんが微笑みながら「どうした、良三」と言つた。良三は急に悲しくなつてわつと聲をあげて泣いた。「いいよ、泣かなくていい、もう歸つて来たんだもの……」良三はいつまでもしくしく泣き止んでゐた。

その傷が膿んで、良三の膝には今尙火傷の痕の様に成つて残つてゐる。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

良三は泣き相な顔をして足を引つてかへつて来た。ズボンがすれて時々ちくちくと痛んだ。

良三が病院から歸ると、兄ちゃんが微笑みながら「どうした、良三」と言つた。良三は急に悲しくなつてわつと聲をあげて泣いた。「いいよ、泣かなくていい、もう歸つて来たんだもの……」良三はいつまでもしくしく泣き止んでゐた。

その傷が膿んで、良三の膝には今尙火傷の痕の様に成つて残つてゐる。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

良三は泣き相な顔をして足を引つてかへつて来た。ズボンがすれて時々ちくちくと痛んだ。

良三が病院から歸ると、兄ちゃんが微笑みながら「どうした、良三」と言つた。良三は急に悲しくなつてわつと聲をあげて泣いた。「いいよ、泣かなくていい、もう歸つて来たんだもの……」良三はいつまでもしくしく泣き止んでゐた。

その傷が膿んで、良三の膝には今尙火傷の痕の様に成つて残つてゐる。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。

……停車場には深山の人が居て出たり入つたりした。けさもう三つも汽車が着いたのに未だ兄ちゃんも姿は見えない。良三はじよんぼり戻つて来た。

「母ちゃん、兄ちゃん来れえよ」「まあ何處へいつたと思つたら、もう停車場にいつたの、兄ちゃんはいれ、十時の汽車だから未だなのよ」

未だ七時にならなかつた。良三は時間の経つのがまだろくてならなかつた。繪本を見つて面白くないし、遊びに行つてもいいけど遅れちまふと困るからなあ……良三は九時になるさもう家を出た。何だか遅い様で良三は一生懸命にかけた。

良三はもう少しで停車場といふ所で、さう／＼石につまづいて転んで了つた。「あら」乙女の聲！良三はばつと顔を染めて直ぐ立上つた。膝がひりひりする。そのつとズボンまくつて見ると、真赤な血がだら／＼と流れてゐた。